ISSN 0387－7639

No. 7

Library News

December, 1980

滋賀医科大学附属図書館報

目　次

大学における図書館 …… 1
5回生のための医学文献の調べ方ガイダンス実施 …… 2
「医学文献の調べ方」について …… 4
医学文献の調べ方ガイダンスについて …… 4
シリーズ　文献調査のために〔4〕 …… 5
お　知　ら　せ …… 9
古医書へのご招待　中国医学の基本的経典 …… 9
図書館の活動 …… 10

大学における図書館

副学長　佐野利勝

12，3年もまえのことであるが，ミュンヒェン大学医学部の人から，大学の図書館はあらゆる他の大学図書館と連絡がとれていて，入手したい資料を申し出れば，他の大学にあるものもマイクロフィルムにして送ってもらえるのだ，と誇らしげに説明され，なるほど立派なものだな，と感心したことがあった。

本学では開学と同時に，仮校舎に図書館が設置され，以来，歴代の館長以下，職員の方たちのなみなみならぬ努力によって，蔵書数も急速に増加しただけではなく，はやくから図書館整備の基本方針がうち建てられ，その構想が着実に実現されてきたのを眼のあたりにし，今更ながら図書館関係者の御努力に頭の下る思いである。オンライン文献検索のシステムの利用もできるようになっており，私のような文学関係者はそれを利用する機会もなさそうだが，医学研究者にとっては絶対必要なものに相違なく，もう，ミュンヒェン大学の人に威張られることもない。

ところで，近年学生達の図書館利用率が著しく低下し，殊に外国書の貸出しの少ないことが折にふれて指摘されているが，本学では貸出冊数も多く，利用率も急速に上昇している。また，えてして宝の持腐れになりやすい視聴覚設備も活発に利用されているとのこと。喜こばしいことである。これも，図書館はサービスに徹すべきだ，という図書館関係者の奉仕的精神に負うところが多いと思われる。

しかし，甘えていてはいけない。読書は能動的で，生産的な作業である。書物から何かを得てくるためには，読む者が自分の心の中に積極的な問題意識を持っている必要がある。少々飛躍した言い方だが，読書はちょうど音楽の演奏のようなものだ。音楽において書物に当るものは楽譜であろう。そ

れを演奏しようとする者は，まず技術的な鍛錬を経なければならない。洋書を読む者に外国語の訓練が必要なのと同様だ。しかし，技倆だけでは足りない。作曲者がその作品を書いた時の心に，創造的に参加し，それに共感できる能力がなければ，よい演奏は成立しないだろう。ドイツ語では，演奏家はInterpret（解釈家）という。興味ある，意味深い言葉だと思う。読書の場合も同様である。読むものが生産的，創造的な姿勢を持っているときにはじめて，よい読書は成立する。昔の人々の読書の態度は立派なものであった。学者の肖像画に，よく，書見台にむかって端座している姿が画かれているが，昔の人は，書物に対して大きな敬意を抱きながら，端然として，それに対坐していた。私など，病中に身についた悪癖がとれず，今も毎晩のように寝床のなかへ書物を持ち込む始末である。我ながら，読書態度も乱れたものだと思わずにおれない。

私は，戦時中から終戦直後にかけて，学生生活を送ったので，当時は欲しい書物を入手することは極度に困難であった。まして洋書を買い求めることは全く出来なかった。そのような状況のなかでは大学図書館は実に有難いものであった。ドイツ文学辞典で調べて書き取ってあった基礎的資料や重要参考書を，代々の先生が買い集められた藏書のなかに発見したときの喜びは，大きいものであった。

図書館は文字通り宝庫であり，聖所であって，図書館へ入る時には，どこかへ参拝するような緊張を覚えたものである。ところが，終戦後何年か経って，欲しい本が買えるようになると，そのような気持も次第にうすらいでしまった。人間とはなんという忘恩的なものであろう。

図書館には歴史の年輪が感ぜられることが望ましい。その意味で，河村文庫の意義は大きいと思う。晩年のゲーテと親交のあったフーヘランドの著書「扶氏経験遺訓」がその中に含まれているのも，嬉しいことである。この本がすでに幕末に緒方洪庵により訳されて，わが国に紹介されていたのだ。最新の学問的成果も，数多の先達の遺業のうえに築かれている。先生の労苦と，驚くべき勉学意慾を思うとき，襟を正さずにはおれないではないか。大学における図書館は，やはり聖所である。

5回生のための医学文献の調べ方ガイダンス実施

1. 趣　旨

本学では毎年9月より5回生の臨床実習がはじまる。実際の診療に参加する中で学生たちはいろいろな問題に接し，それらについての理解と問題解決の能力が必要とされる。その際に教科書や単行本を参照するだけでは，必要な理解を得られない場合が多い。

そこで図書館では，雑誌論文を中心とする医学文献の調べ方について習熟してもらうため，5回生を対象に下記の要領でガイダンスを実施した。

2. 概　要

1）時期　・9月8日（月），9日（火），10日（水），13日（土）の4日間

2）場所　・図書館2階グループＡＶ室

3）内容　・医学文献の調べ方について――Index Medicus と医学中央雑誌を中心に――

4）方法　・4班に分けて，各班2時間半ずつ講義と実習。

・講義は図書館で作成した概要をを中心とするテキストと実例を

示すＯＨＰフィルムを用い，実習は検索用語の選び方を中心に演習問題20問を用意し，各班をさらに４グループに分け，各グループ５問ずつ解答してもらった。

５）講師　・１名＋実習補助者　２名

3. 結　果

このガイダンスに参加した５回生は98名のうち90名（91.8％）であった。このように高い参加率が得られたのは，クラスの担任のご協力のもとに，９月６日（土）の臨床実習オリエンテーションの際，館長より，文献調査の必要性とともに，図書館が企画した医学文献の調べ方ガイダンスも臨床実習の一環であり，半ば義務として出席するよう，学生に説いていただいたことによる。

ガイダンスの最後にアンケートを実施したが回収した67名（74.4％）のうち，医学文献を探すための二次資料（索引・抄録誌）を知っていると回答した学生は21名（31.3％）であった。

この数字は，図書館側で予想していたよりも高い数字であるが，この中には具体的な使い方は知らなくても，その存在を知っているという意味で回答した者も含まれると思われる。

4. 学生の感想、意見

またアンケートにみられる今回のガイダンスに対する感想，意見をまとめると，

・将来役に立つのでよかった。

・今後も続けてほしい。

という，この企画そのものに対する肯定的な評価の反面，そのやり方や内容にはさらに工夫が必要とされる。すなわち，

・時間をゆっくりとり，休憩をはさむ。

・講義は実際の引き方・見方を中心に，もっと実例（具体例）を多く採り入れる。
（二次資料の歴史や成り立ちは必要ない。）

・ＯＨＰの説明だけではわかりにくいので，テキストをもっと詳しくし，それを見ながら自習できるようにする。

・「実習ではじめて理解できた」「実習を中心に」「実習にあてる時間を長くとる」という意見がある反面，「実習は２つぐらいすれば理解できる」という意見もある。これは，講義の中で，現物の二次資料を手にしながら，さまざまの実例をもとに，実際の引き方・見方を中心に説明し，演習問題は２つぐらいやれば充分であるという意味であろう。

・演習問題には学生の興味・関心のあるものを選ぶ。

5. おわりに

「前の大学では，こんな指導はなく，研究室の先輩に教えてもらっていた」ということばにみられるように，ここに学生や若い研究者の成長発達を援助する図書館の役割があるように思う。

図書館では，すでに行った新入生を対象にしたビデオと館内案内による図書館利用の基本的なことがらに関するオリエンテーション，臨床実習に入る５回生を対象とした第１次の文献の調べ方に関するオリエンテーションを今後とも毎年継続して行うとともに，さらに来年度設置される大学院に入学した学生や若手研究者，各教室で研究補助をしている事務官等に対する第２次の文献調査に関するオリエンテーションも行うことを計画している。

次に今回のガイダンスへの参加者からいただいた感想を紹介して，この報告を終えたい。

（岩本　記）

「医学文献の調べ方」について

5回生　山　崎　　淳

図書館に収められている数々の文献の使い方を知らないために疎遠に感じていたが，今回のガイダンスの御蔭で，医学文献を身近なものとして感じるようになった。

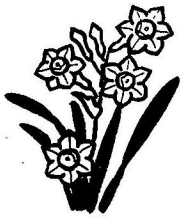
そもそも，医学は日進月歩の発展をしていて，成書を読んでいるだけではup–to–dateな医学知識に遅れてしまう。特に，卒後において，最新の医学情報の文献の調べ方に習熟していることが不可欠である。また，臨床実習に際しても実習中に起こる個々の疾患についての細かい疑問点を調べるのに役立っている。臨床講義やpractical conferenceの発表に際しても，教科科書のレベルを越えた，実用レベルの緻密な情報に基づいて考える姿勢を身につけることができるようになりだした。

まだ文献を調べるのは駆け出しではあるが，文献をおおいに活用し，よい医者になるよう努力したい。

医学文献の調べ方ガイダンスについて

5回生　北　川　啓　子

今回，図書館の方から，医学文献の調べ方についてガイダンスを受け，また実際に，インデクス・メデクスや医学中央雑誌の使い方を教えていただき，たいへんにわかりやすく，ためになったと思う。とかく学生の間は，図書館を，参考書を借りるぐらいにしか利用しないかもしれないが，将来私たちが，臨床医や研究者になって，あるテーマについて調べたり研究しようとする時，医学文献を調べることは最も基礎となる重要な事柄であり，今回のガイダンスはたいへん実用的で参考になりよかったと思う。私たちは学生の間でも，先生から調べてくるように言われたりすることがある。今後自分の興味のある分野は自主的に，これらの索引・抄録誌を活用して，生の文献にできるだけ早くから親しむように心がけたいと思う。



シリーズ 文献調査のために〔4〕

ー索引・抄録誌紹介ー

EXCERPTA MEDICA
ー世界最大の医学文献の抄録誌ー

I 概 要

Excerpta Medica (EM) は世界の医学関係の代表的な雑誌4,389誌(1979)に掲載された論文の抄録誌である。また，雑誌論文以外に，会議録中の論文，単行本，学位論文も収録されている。

EMは1964年に設立されたアムステルダムに本拠を置くExcerpta Medica Foundation により，1947年に創刊された。主題領域によってセクションに分けて刊行され，現在では43セクションに及んでいる。(表1)

各セクションは1巻10号という構成をとり，文献量の多いセクションは年2～3巻刊行される。

各号はEM独自の階層分類表によって各文献の抄録が分類配列され，号末にはSubject Index および Author Index があるが，第10号のそれらは1巻分の累積索引である。

II 特 徴

1) 主題内容

医学情報を主とする抄録誌であることはもちろんであるが，①薬物に関する情報が極めて多い，②毒性，安全性方面の情報源としても重要な抄録誌である。

2) 収載誌の地理的分布

1974年のEMのデータベースに収載された国別雑誌収載数の調査（10誌以上収載されている国についてのデータ）をもとに地理的分布をまとめてみると，表2のとおりである。

アメリカ（6カ国）	22.1 %
北アメリカ（3カ国）	19.7 %
合衆国	18.1 %
南アメリカ（3カ国）	2.4 %
ヨーロッパ（22カ国）	49.5 %
西ヨーロッパ（14カ国）	38.8 %
東ヨーロッパ（8カ国）	10.7 %
南アフリカ	0.4 %
オーストラリア	0.7 %
アジア（3カ国）	6.3 %
日本	4.9 %

表2 EM収載誌の地理的分布（1974）

※データは鈴木ほか（1979）にもとずく

このことからもIndex Medicus と比較して，ヨーロッパ系，ことに東ヨーロッパ系の雑誌が比較的多く収載されていることがわかる。

3) 索 引

Index Medicus (IM) では，同義（類義）語，上位概念語，下位概念語，関連語の関係を整理し，限られた数（約1万4000語）の MeSH

(Medical Subject Headings)とよばれるvocabularyをもとに索引をおこなっているため，あまりに特定（specific）な用語，出現頻度の少ない用語，新しすぎる用語で表わされる概念は，いくぶん広めの概念を表わす用語や最も関連の深い用語で索引される。例えば，ligamentum(a) flavum(a)(またはyellow ligament(s))，pyridoxylideneisoleucineは，それらより広い概念の用語 ligaments, isoleucineで検索しなければならない。

これに対し，EMでは，約18万の指定索引語（preferred terms）と約25万の同義語が互いに関係づけられたMALIMET（Master List of Medical Indexing Terms）とよばれる索引用語辞書をコンピュータ内部に持つことによって索引語をコントロールしており，できる限り特定(specific)な用語で検索できるようになっている。また，約18万のpreferred termsのうち，約10万は薬物・化学物質の用語である。しかも毎年約12,000の用語がMALIMETに追加されそのほとんどは新薬の名称であるといわれる。

上記の例も，それぞれ，ligamentum flavum, pyridoxylideneisoleucineで検索される。

Ⅲ 使い方

1）セクションの選定

印刷体の抄録誌は主題領域毎に各セクションに分けて刊行されるので，まず，これから検索しようとするテーマの文献がどのセクションに収録されているかを決定しなければならない。例えば，頸椎横色靱帯骨化症について調べようとする場合，該当セクションは，Sect. 8：Neurology and Neurosurgery，またはSect. 33：Orthopedic Surgeryであろう。そして2つ以上の主題領域に関係のあるものは，2つ以上のセクションに索引・抄録される。

なお，主要な用語については，どのセクションを参照したらよいかを調べるための案内として，

Guide to the Excerpta Medica Classification and Indexing System.（Amsterdam：Excerpta Medica, 1978）

がある。

2）索引語の選定

次に，該当するセクションの各巻または号のSubject Indexを見ながら，どういう用語で索引されているかを調べていくわけであるが，より確実にはMALIMETを参照しなければならない。ただし，これはコンピュータ辞書であり，マイクロフィッシュの形で一般にも入手できるようになっている。(このマイクロフィッシュ版のMALIMETは当館にも備えてある。)

上記の例では，cervical spine, ligamentum flavum, ossificationの3つの用語で索引されている。

1例を示すと，EM, Sect, 8：Neurology and Neurosurgery, vol, 30（1974）では次の2カ所に索引されている。

- ligamentum flavum, ossification, posterior longitudinal ligament, japanese, 48 cases, 2764
- ossification, ligamentum flavum, posterior longitudinal ligament, japanese 48 cases, 2764

印刷体の抄録誌のSubject Indexでは，このように索引語が列挙され，それ自体一つのミニ抄録のような形になっている。

この索引用語には2種類あって，

－ primary indexing terms －MALIMETと照合される

－ secondary indexing text －MALIMETと照合されない

という２つの異なるレベルから構成される。

上の例では，ligamentum flavum, ossification, posterior longitudinal ligament の３つの用語が primary indexing terms であり，MALIMET中のpreferred terms である。

なお，1978年よりEMでは primary indexing terms をさらに２つのタイプに区別している。すなわち class "A" terms と class "B" terms である。Class A terms は論文中の重要な（important）あるいは主要な（major）概念を表わす primary terms であり，これらはすべて印刷体の抄録誌の subject index の見出語となる。一方，class B terms は論文中の周辺的な（peripheral）あるいは副次的（secondary）概念を表わす primary terms であり，これは見出語とはならない。

これに対して，secondary indexing text は，primary indexing term で表わされない，一般的あるいは数量的な（例えば，患者数，症例数等）情報を提供するもので，その論文の内容をより具体的に示し，抄録を読まなくてもある程度論文の内容がわかるようになっている。この secondary indexing text は MALIMET と照合されず，自由に与えられ，Subject Index の見出語にもならない。上の例では，japanese, 48 cases がそうである。

3）抄録番号により抄録本文を参照する

上に示した例では，最後の2764という数字が抄録番号であり，この巻（30巻）の本文中の2764という番号の付された抄録を見ると以下のようになっている。

2764. Ossification of spinal ligaments. A clinical and radiological analysis (Japanese) - Yanagi T., Kato H., Yamamura Y. and Sobue I. - I Dept. Int. Med., Nagoya Univ. Sch. Med., Nagoya -
CLIN.NEUROL. (Tokyo) 1972 12/11 (571-577)

A clinical and radiological study was performed on the significance of ossification of the ligamenta flava (OLF) in 55 subjects with ossification of the posterior longitudinal ligament (OPLL) of the cervical spine as compared with 48 cases with cervical spondylosis. Distinct OLF was recognized in the thoracic spine of 12.7% and in the lumbar spine of 3.6% of the 55 patients with OPLL. The incidence of OLF of the thoracic spine was significantly higher in OPLL associated with ossification of the anterior longitudinal ligament (OALL) than in cervical spondylosis. There was no correlation between the degree of radiological abnormalities of OLF and that of spondylosis. OLF was not necessarily associated with neurologic manifestations. Neurologic signs and symptoms frequently seen in patients with OLF included dull pain, limitation of motion in the thoracic and lumbar spine and paresthesia in the lower back and/or lower extremities. OLF was recognized most frequently in the lower thoracic spine and much less frequently in the cervical spine. By contrast, OPLL was commoner in the cervical spine. OPLL, OALL and OLF were frequently found to coexist in the same patient, and they were observable in any part of the spinal column. Therefore it appears reasonable to give these ossifications of various ligaments the generic name of 'ossification of spinal ligaments'.

この抄録を読めば，この論文は当初求めていた「頸椎黄色靱帯骨化症」について扱った文献であることがわかる。

文　献

鈴木重量・平林和夫・酒井満（1979），二次資料の効果的利用法・Excerpta Medica, 薬学図書館 24（3/4）：160－190.

The Excerpta Medica Mark II Biomedical Information System.（Amsterdam : Excerpta Medica, 1978）

Excerpta Medica User Manual.（Amsterdam : Excerpta Medica, 1979）

表1

THE 43 SECTIONS OF EXCERPTA MEDICA

Section Number	Title	Annually Published Number of Issues	Volumes	First Published
1	Anatomy, Anthropology, Embryology and Histology	10	1	1947
24	Anesthesiology	10	1	1966
31	Arthritis and Rheumatism	10	1	1965
27	Biophysics, Bioengineering and Medical Instrumentation	10	1	1967
16	Cancer	30	3	1953
18	Cardiovascular Diseases and Cardiovascular Surgery	20	2	1957
15	Chest Diseases, Thoracic Surgery and Tuberculosis	20	2	1948
29	Clinical Biochemistry	30	3	1948
13	Dermatology and Venereology	10	1	1947
21	Developmental Biology and Teratology	10	1	1961
40	Drug Dependence	12	1	1972
3	Endocrinology	20	2	1947
46	Environmental Health and Pollution Control	20	2	1971
50	Epilepsy	12	1	1971
49	Forensic Science	10	1	1975
48	Gastroenterology	20	2	1971
5	General Pathology and Pathological Anatomy	30	3	1948
20	Gerontology and Geriatrics	10	1	1958
36	Health Economics and Hospital Management	10	1	1971
25	Hematology	20	2	1967
22	Human Genetics	20	2	1963
26	Immunology, Serology and Transplantation	20	2	1967
6	Internal Medicine	20	2	1947
51	Leprosy and Related Subjects*	10	1	1979
4	Microbiology: Bacteriology, Mycology and Parasitology	20	2	1948
8	Neurology and Neurosurgery	30	3	1948
23	Nuclear Medicine	20	2	1964
10	Obstetrics and Gynecology	20	2	1948
35	Occupational Health and Industrial Medicine	10	1	1971
12	Ophthalmology	10	1	1947
33	Orthopedic Surgery	10	1	1956
11	Otorhinolaryngology	20	2	1948
7	Pediatrics and Pediatric Surgery	20	2	1947
30	Pharmacology and Toxicology	30	3	1948
2	Physiology	30	3	1948
34	Plastic Surgery	10	1	1970
32	Psychiatry	20	2	1948
17	Public Health, Social Medicine and Hygiene	20	2	1955
14	Radiology	20	2	1947
19	Rehabilitation and Physical Medicine	10	1	1958
9	Surgery	20	2	1947
28	Urology and Nephrology	10	1	1967
47	Virology	10	1	1971

* **This is a new Section, commencing in 1979, and is not included in the full-set subscription.**

(岩本 記)

お　知　ら　せ

1）視聴覚資料目録について

本報6号において「今年度の重点活動について」としてご紹介した当資料目録のうち整理の遅れていたスライドの目録作業は先頃完了し，カードで検索・利用できる体勢が整いました。ご不便多謝。

なお，今年度中には更に利用者に所在情報として配布しうるパンフレット形式のものを作成する予定にしております。

2）「図書館利用案内」発行

一目で図書館のサービス内容や利用の仕方のわかるパンフレットをと，各大学で出している「利用案内」を参考にしながら，半年ほど検討してきました。そしてさる9月末，ようやくすでに各教室等にお配りしたような「図書館利用案内」が出来上りました。

学生諸君には，新入生オリエンテーションの際に配布いたします。

A5判，12頁，2色刷，図表・カット入。

一古医書へのご招待一

中国医学の基本的経典

黄帝内経素問・霊枢

（江戸時代の翻刻，全9冊，守一堂文庫）

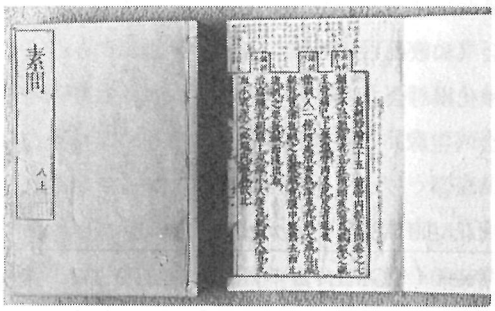
黄帝内経素問註證発微

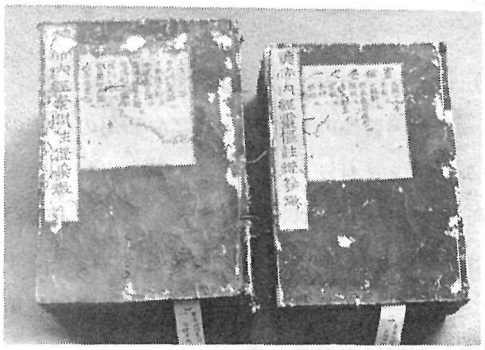
黄帝内経霊枢註證発微

（馬玄台註，寛永5年翻刻，全18冊，守一堂文庫）

黄帝内経は，単に「内経」とも呼ばれ，古来，中国医学の基本的経典とされてきた。本書は素問と霊枢から成り，素問には主として陰陽五行説に基いた思想や医理論が，また霊枢には鍼灸に関する実地上の技術が記されている。いずれも中国の伝説的な皇帝である「黄帝」（BC 2600年頃）とその臣・岐伯，雷公，少俞等との問答形式になっているが，著者は明らかでない。恐らく後世の人が，医秦や扁鵲など先人の遺稿をもとに編纂したものであろう。前漢時代の「芸文誌」に「黄帝内経」の名が現れるので，少なくとも紀元前1世紀頃には出来上っていたと推測される。本学の所蔵本は，江戸時代の翻刻本で，巻1から6迄が霊枢，巻7から9迄が素問となっている。

素問，霊枢が後世の中国医学および我国の漢方医学に与えた影響は計り知れない程大きく，近代西洋医学が導入される迄金科玉条の如く尊





ばれていた「傷寒論」すら素問から内容を得ていた。我国にはかなり早くから輸入されていたとみえて，養老律令（養老2年，718年に制定）の医疾令に「針生は素問，黄帝針経，明堂，脉決を習う」ことが決められている。

素問・霊枢はともに陰陽五行説に基いた高邁な宇宙観，生命観に貫かれているため理解に難しいところが多い。そこで，本書の註解書が数多く発刊されているが，代表的な註本は今回紹介した明の馬蒔（玄台）の「註證発微」である。本学の収蔵本は，寛永5年（1628年）本邦で翻刻されたもので素問の「註證発微」（巻1～9，補遺）12冊および霊枢の「註證発微」（巻1～9，補遺）6冊から成っている。

本学には，この他寛文3年（1663年）翻刻の「内経素問」（王冰撰，全12冊，河村文庫）が収蔵されている。

（石黒記）

図書館の活動（55・9～10）

55・9・5	第5回近畿地区国公立大学図書館長・事務（部・課）長連絡会議（京都平安会館）
9・8～10・13	5回生に対する文献の調べ方ガイダンス（図書館）
9・11	京・滋・奈国立大学図書館機械化検討会（京都大学）
9・17	古医書のワーキング・グループ
9・17～19	医学書展示会（図書館）
9・18～18	第1回大学図書館研究集会（横浜）
9・26	近畿地区医学図書館協議会例会（和歌山）
10・17	京・滋・奈国立大学図書館機械化検討会（京都大学）
10・23～24	第51回日本医学図書館協会総会（宝塚）

◎来館者の呼出しは2078番（カウンター）へして下さい。

Library News No. 7（1980年12月）　Telex SGMLIB J 5464－911
発行：滋賀医科大学附属図書館　〒520－21 大津市瀬田月輪町　電話 0775－48－2076